

# 序

最近ようやく管理栄養士養成課程が、「文系」か「理系」かといったときに、「理系」であることが認知されるようになりました。しかし、そのようなことがあってか、入学してくる学生たちからは「高校時代にあまり化学の勉強をしていないので心配です」や「化学は苦手です」といった声を多く聞くようになりました。また、少子化によって手厚い個別対応をしてもらえることに慣れてしまった学生が、入学した途端に自立を求められて戸惑うことも多いように感じます。本来なら、管理栄養士を目指そうと希望にあふれた明るい気持ちで栄養学の勉強をスタートさせてほしいところなのに、最初から大きな不安を抱えながらスタートさせるのは、非常にもったいないことであり、学生を迎える側にとっても悲しいことです。

化学は栄養学を修得するうえで外すことのできない基礎科目であるため、各大学において、入学前あるいは入学直後にいろいろな工夫をされ、学生たちの不安を取り除き、良いスタートを切ってもらえるようにと苦慮されていることもよく耳にします。

そこで、本書は、化学を専門に教えておられる先生とは違った目線で、日ごろ栄養学を教えているなかで考える、少なくとも前もって身につけてほしい化学の知識について、学生の皆さんが自らで理解できることを目指して執筆しました。そのため、基礎化学と題しながら内容が薄いと批判を受ける節はあるとは思いますが、内容は栄養学に必要な重要事項に限定して、しかしそれらの事項については確実に理解してもらえるように、例や例題を多く取り入れて説明すると同時に、栄養学への展開の仕方も確認できるように努めたつもりです。

本書を通じて、学生の皆さんの不安が少しでも解消され、できれば少し自信をもって栄養学をスタートすることができるように、また、多忙な日々を送られている先生方の一助になればと願っています。

最後に、本書の出版にあたり、不慣れな私に多くの適切な助言をくださるなどしてお力添えくださった羊土社編集部のかみ麻奈未氏をはじめとする皆様に深く感謝申し上げます。

2017年10月

土居純子